グラウンドワーク三島が成した30年の活動成果と今後のアプローチとは

―右手にスコップ・左手に缶ビールのノウハウと秘訣―

NPO法人グラウンドワーク三島 専務理事

元都留文科大学教授・農学博士
渡辺　豊博

「水の都・三島」の環境悪化が活動の原動力

①汚れた源兵衛川の暗渠化問題の発生
②変わり果てた『水の都・三島』の水辺自然環境
③バラバラな市民・NPO・行政・企業
④難しいパートナーシップの構築

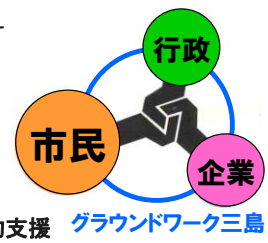
イギリスで始まったグラウンドワーク手法を導入、実践
- 仲介型NPO「グラウンドワーク三島」の結成
- 水辺自然環境の再生、原風景・原自然の復活
- パートナーシップの有益性と発展性を実証
- 「NPOの特性」をフル活用
  自由度、迅速性、行動力、独創性、先駆性、柔軟性、多彩性、汎用性、社会的波及効果、教育的波及効果

グラウンドワーク三島の合言葉・信条

「右手にスコップ・左手に缶ビール」
「議論よりアクション」「走りながら考える」

グラウンドワーク三島の役割
―地域総参加の社会システムの構築―

- **市民**・・・現場で汗を流す
  市民力・地域力を結集
- **企業**・・・協力する
  専門性を発揮、資機材提供
- **行政**・・・支援する
  資金援助・制度的支援・物的支援
- **グラウンドワーク三島**・・・調整・仲介する
  中立的・専門的な支援と役割

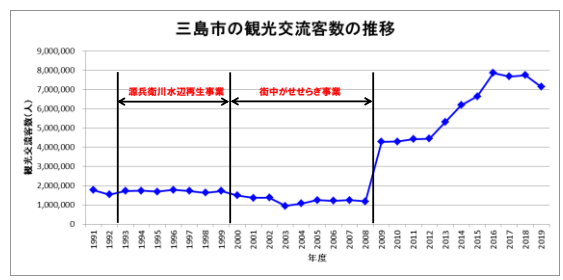


グラウンドワーク三島の実績と効果

活動期間	設立から30年が経過
関連団体	20の市民団体がネットワークを形成
実践地区	70箇所のまちの魅力アップを実践
参加人数	40万人のボランティアが参加
視察受入	3.5万人・2,000団体にノウハウ提供
社会的波及効果	観光交流客数174万人（1991年度）が714万人（2019年度）と約4倍に増加
環境再生から観光振興	川・湧水池・森・里山・ミシマバイカモ・ゲンジボタル・ホトケドジョウの再生、まちの回遊性の仕掛け

事業の波及効果

●地域の経済的発展に貢献
- 観光交流客数174万人（1991年度）が約714万人（2019年度）と約4倍強に増加



水と緑のせせらぎ事業の評価

- 新型コロナウイルスの感染拡大の中、2020年5月に実施された市民アンケート91.7%が「三島は住みやすい」と答え、満足度は前回4位「公園・水辺空間の整備」が2位に浮上
- 密にならない疎の水辺自然環境の優位性が居住環境の価値として評価
- 三島市内の商店街はコロナ禍で苦しみ、残念ながら空き店舗・空き家が増加
- 街中全体を鳥瞰したグランドデザインの策定
- 「右手にスコップ・左手に缶ビール」で幸せな生活環境を地域協働で創出継続

伊豆日日新聞　令和2年（2020年）8月29日（土曜日）

三島市市民意識調査

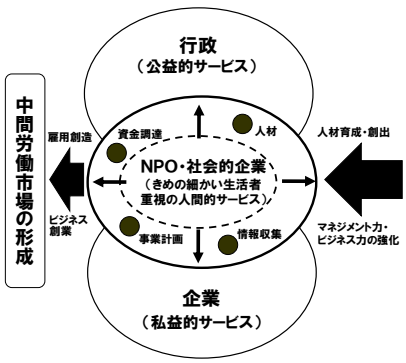
91.7%が「住みやすい」

「幸福感」とともに過去最高

「公園・水辺空間の整備」満足率上昇

グラウンドワーク三島の経営理念

- NPOは社会の「隙間」と「歪み」を埋める隙間産業
- 「ビジネスチャンス」は少子高齢化の地域社会にあり
- 人は人のために生きてこそ人なり
- 現場に具体的な「成功モデル」がなければ信用されない
- 現場での1つ1つの実践成果がまちづくりの資源に
- 継続なくして信頼なし
- 集中と分散…1つの成功モデルを創り蓄積していくこと



グラウンドワーク三島の活動手法

① ボトムアップアプローチ（下から上へ、現場主義、実践・成果主義）
② パートナーシップアプローチ（市民・NPO・行政・企業との有機的な連携）
③ ネットワークアプローチ
（多様な市民団体、NPO同士の連携、共存共栄・相互補完の仕組み）
④ ホリスティックアプローチ（人の心を変えること、自立、自律への社会教育）
⑤ マネジメント力（保護から保全・活用へ、環境と経済との両立）
⑥ ビジネス力（地域資源を活用したNPO・市民ビジネスの創業）
⑦ キャパシティビルディング（住民の政策立案・執行能力の育成）
⑧ 地域経営の主体者（未開発の農業・環境・文化・歴史・景観資源の活用）
⑨ 人間的サービス提供の担い手（死にがいのあるまちづくりの先導者）

※地域は誰のものかの問題意識と具体的な行動力

プロジェクト実践地

点から線へ、線から面へ

70箇所
（30年間）

多様な環境改善を実践（70箇所）

手作り公園・荒地再生
- 鎧坂ミニ公園
- 沢地ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｶﾞｰﾃﾞﾝ
- みどり野ふれあいの園

水辺環境再生
- 源兵衛川
- 宮さんの川
- 桜川
- 御殿川
- 水車のある原風景再生

学校ﾋﾞｵﾄｰﾌﾟ・環境教育
- 函南さくら保育園ﾋﾞｵﾄｰﾌﾟ
- 長伏小学校ビオトープ
- 中郷小学校ビオトープ
- 三島南高校ビオトープ
- 鎮守の森探検隊
- 環境出前講座
- 人材育成・ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ

自然環境保全再生
- 境川・清住緑地
- 宮さんの川・ほたるの里
- 花とホタルの里
- 松毛川千年の森づくり
- 大場里山自然公園

環境コミュニティ・ビジネス
- せせらぎシニア元気工房
- 三島うみゃあもん屋台
- そばつくり隊
- 三島街中カフェ
- 三島農村カフェ
- 耕作放棄地・里山再生

地域の宝物再生
- 雷井戸
- 三島梅花藻の里と水神さん
- 鏡池ミニ公園
- 桜川のカワバタ
- 腰切不動尊と古井戸
- 右内神社とうなぎの枯古池
- 窪の湧水
- 南本町造成地湧水地保全
- 富士山湧水調査・保全活動

環境美化・その他
- フラワー通りの演出
- 三島測候所保存
- 丸平商店再生支援
- 環境バイオトイレ
- Via701ホール運営
- ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞﾜｰｸ研修ｾﾝﾀｰ
- 国際環境交流（英国・台湾・韓国・米国・ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ）
- ｼｬｷﾞﾘ山車再生活用支援

主なプロジェクト実践地

荒地再生・市民手作り公園

・鎧坂公園（1993 年～）
　雑草が生い茂っていた約 40 坪の空き地を、子ども会をはじめ多くの住民グループの一斉作業でポケットパークに整備

・沢地グローバルガーデン（1993 年～）
　民間レベルの国際交流を実践する地域のグループが主体となって整備・維持管理する「交流の場」

・みどり野ふれあいの園（1994 年～）
　雑草が伸び放題だった市の遊休地が、町内会や子ども会の皆さんと企業の協力で素敵な公園に

（鎧坂公園）

地域の宝物再生

・三島梅花藻の里と水神さん（1995 年～）
　冷たいきれいな湧水でしか育たない水中花ミシマバイカモ。一時期市内では絶滅したが、その再生基地を整備

・雷井戸（1996 年～）
　江戸時代からある市内最大の井戸。かつては簡易水道の水源だったが使用放棄されてしまった井戸の再生

・腰切不動尊と古井戸（1999 年～）
　忘れ去られようとしていた不動尊をお祭りの復活や裏手にあった古井戸の整備を行い、地域の宝物として再生

（三島梅花藻の里）

自然環境保全・再生

・境川・清住緑地（1999 年～）
　貴重な自然環境が残されている広大な遊水池（約 85a）を対象とした大ビオトープ公園の整備をコーディネート

・宮さんの川・ほたるの里（2004 年～）
　市民の手によって景観整備・維持管理がされている「宮さんの川」上流にほたるの里づくりをパートナーシップで実施

・松毛川周辺自然再生（2003 年～）
　自然再生事業のモデルとして河川環境の再生、「千年の森づくり」に取り組む。ホテイアオイの除去作業や河畔林保全活動を実施

（境川・清住緑地）

学校ビオトープ・環境教育

・長伏小学校ビオトープ（1999 年～）
　人工芝の中庭を子どもたちの環境教育の場となるビオトープに。児童、先生、PTA と地元企業との連携で素晴らしい空間に

・函南さくら保育園ビオトープ（2004 年～）
　保育園に隣接する遊休地を活用し、園児も参加して「遊べる自然の場」となるビオトープを整備

・鎮守の森探検隊（2002 年～）
　三島に点在する多くの鎮守の森をフィールドに地域の親子を対象にした環境学習プログラムを開催

（函南さくら保育園ビオトープ）

環境コミュニティ・ビジネス

・せせらぎシニア元気工房（2003 年～）
　シニア有志が中心となって間伐材や放置竹林の青竹などを活用した製品開発

・三島うみゃあもん屋台（2003 年～）
　街のにぎわい再生を目指して、屋台を製作し、それを活用した商品販売。中心商店街のイベントなどで活躍

・そばつくり隊（2004 年～）
　箱根西麓の遊休農地を地元農家と協働で利活用、そばを栽培。地場野菜等の栽培も進め、三島ブランドの開発と地産地消を促進

（そばつくり隊）

「三島測候所を保存する会」

伊豆日日新聞

平成20年（2008年）10月2日（木曜日）日刊

旧測候所の隣接地売却へ

分譲業者が土地開発

保存する会「一定の成果収めた」

三島梅花藻の里「泉トラスト運動」

「三島梅花藻の里」守れ

清流の象徴 宅地開発でピンチ

NPO募金、水源買い取り目指す

伊豆日日新聞

平成26年（2014年）11月27日（木曜日）

「梅花藻の里」宅地造成

「市の取得・整備望ましい」

三島市議会一般質問

市民パワーで三島市による湧水地取得への見通しが立った

推進体制

NPO法人 グラウンドワーク三島（1992年9月設立）

出資

株式会社 パートナーシップトラスト（2017年7月設立）

農業生産法人 アグリライフ三島（2016年9月設立）

営利事業
- 三島街中カフェ事業
- 農業事業（三島そば等）
- 視察受入事業
- 書籍販売事業
- 受託事業

非営利事業
- 助成金事業
- 補助金・交付金事業
- 寄付金事業
- 自主事業
- 国際交流・人材育成事業
- 被災地支援事業

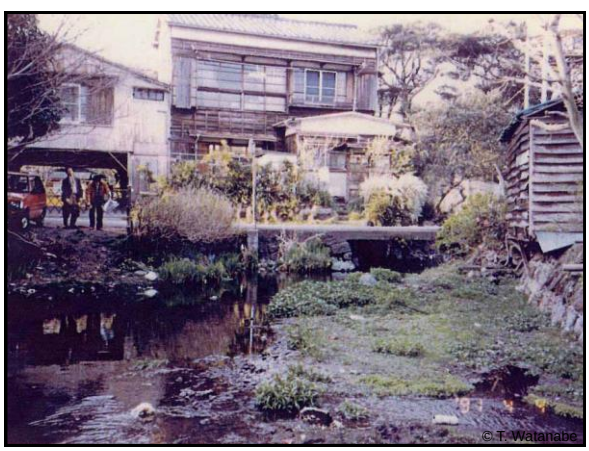
特別事業
- 国・県・市 特別事業

源兵衛川の歴史

- 今から400年前に開削された人工水路
- 自然型の開水路であり、動植物が豊富で自然の多様性に優れている
- 楽寿園小浜池に噴出する富士山からの湧水が水源、延長1.5kmの普通河川
- 管理主体者は「中郷用水土地改良区」、下流13集落・216ﾍｸﾀｰﾙの水田が受益地

源兵衛川の位置図

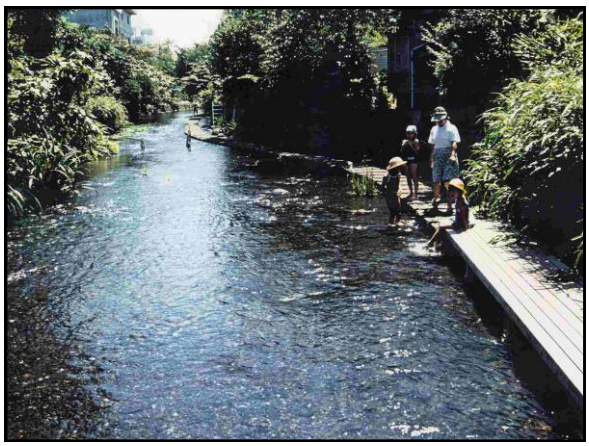
© T. Watanabe



© T. Watanabe

河川環境悪化の実態

- 1955年以降、地下水の汲み上げ等により川や湧水池から湧水量が減少した
- 1964年以降、農業用水の補給用水として、企業からの余剰水を1時間当たり1,200トン、源兵衛川に放流してもらうシステムが確立した
- しかし、湧水が減少する冬期(非かんがい期)は企業からの余剰水の放流が1時間当たり200トンに減少すること等により、源兵衛川の水辺環境の悪化が進行した



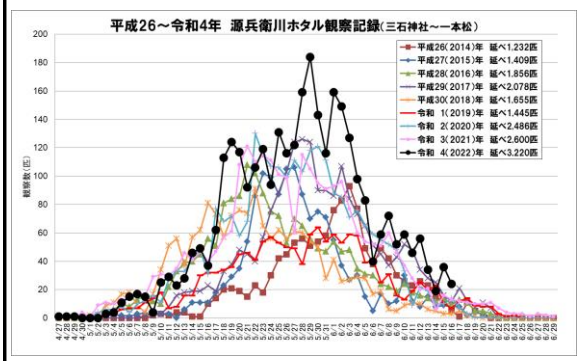
清流がよみがえった源兵衛川上流部

市民力・地域力で清流を再生

地域の恥に成り下がった
汚れていた頃の源兵衛川
（1960年～1989年）

市民力・地域力で清流を
取り戻した源兵衛川

源兵衛川のゲンジボタル観察数（平成26～令和4年）



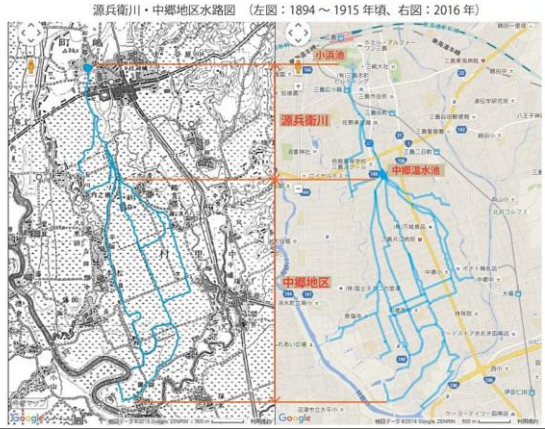
絶滅危惧種・ミシマバイカモを復活

清流のバロメーター
ミシマバイカモ
（静岡県レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類）

源兵衛川・ミシマバイカモ群生地
増殖させたミシマバイカモを移植

源兵衛川 「世界かんがい施設遺産」「世界水遺産」にダブル登録

源兵衛川・中郷地区水路図　（左図：1894～1915年頃、右図：2016年）



グラウンドワーク三島のノウハウ

①共通の理念や目標を構築

- 多様な市民の「共有意識」の醸成
- 情報収集、整理、分析、評価、課題の明確化、課題解決の具体的な処方箋の策定
- 活動範囲は町内、集落等のコミュニティー
- 地域住民の主体性を育む「大人の学校」
- 市民としての義務と責任を果たす

②実践の継続と成果の蓄積

- 右手にスコップ、左手に缶ビール
- 議論よりアクション
- 走りながら考える
- 実践の継続と小さな成果の積み重ね
- 活動継続の持続可能な組織体制の構築
- 持続可能な資金確保の仕組みづくり

③保護から環境マネジメントの視点

- 実現性の高い戦術と戦略の構築
- 地域振興との共生による経済的波及効果
  （潤いのある街からうるおいのある街へ）
- 環境資源から観光資源としての活用と付加価値強化のマネジメント
- 環境資源の多面的活用

④パートナーシップの形成

- 市民、NPO、行政、企業との「有機的関係」の新たな仕組みづくり
- 行政、企業、地域住民、地域組織、市民団体等との「合意形成」のプロセス
- 「対等性・独自性」の確保
  （相手の立場と役割の尊重）
- 相互補完と相乗効果のウィンウィンの関係

⑤短・中・長期アクションプランの策定

- 長期的視点や事業性を含んだ事業計画の策定（持続性と信用性の裏付け）
- 稼げるNPOビジネスの構築
- 利益を出して続けて、次の活動に還元

⑥実践的な環境教育の場づくり

- 子供達の活動現場への取り込み
- 汗臭い親の背中を見せる場づくり
- 高校生や大学生への「グリーンジム」の提供

多彩な実践事例

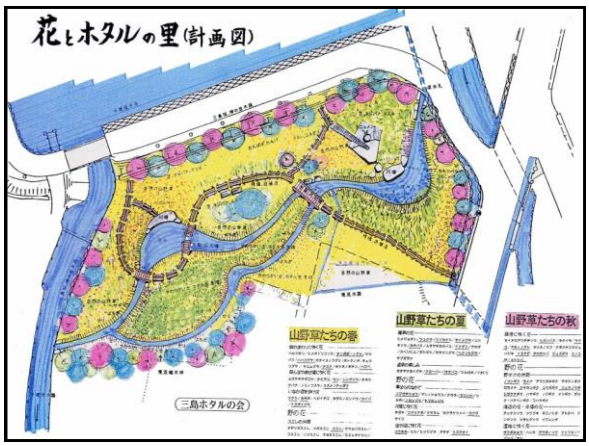
①休耕田を花と蛍の里へ
（花と蛍の里づくり環境教育園プロジェクト）
②市内から姿を消ししたミシマバイカモを復活
（三島梅花藻の里づくりプロジェクト）
③わずか5万円で手作りのミニ公園に
（鎧坂ミニ公園プロジェクト）
④地域総参加で公園づくり
（みどり野ふれあいの園整備プロジェクト）
⑤耕作放棄地を国際交流の場に
（グローバルガーデンプロジェクト）

多彩な実践事例

⑥歴史的な湧水池を再生
（鏡池お清め所再生プロジェクト）
⑦泉トラスト運動で古井戸を復活
（雷井戸再生プロジェクト）
⑧忘れ去られた祭りの復活
（腰切不動尊・古井戸再生プロジェクト）
⑨学校ビオトープによる生態系コリドーを新生
（市内21小・中学校に学校ビオトープを整備）
⑩松毛川「千年の森」づくりプロジェクト
⑪境川・清住緑地再生プロジェクト

①休耕田を花と蛍の里へ

（花と蛍の里づくり・
環境教育園プロジェクト）



②市内から消滅した ミシマバイカモを復活

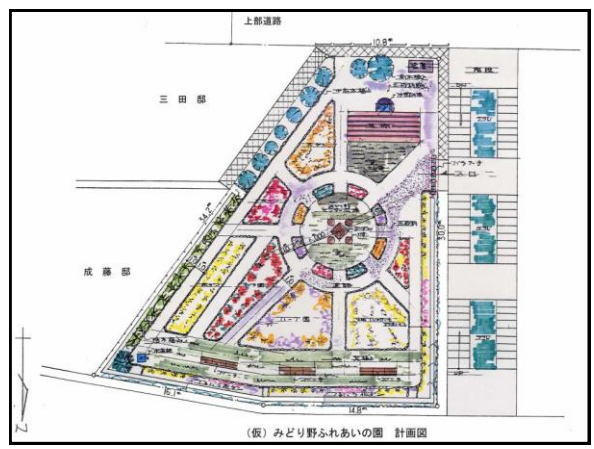
（三島梅花藻の里づくりプロジェクト）

③わずか5万円で手作りのミニ公園に

（鎧坂ミニ公園プロジェクト）

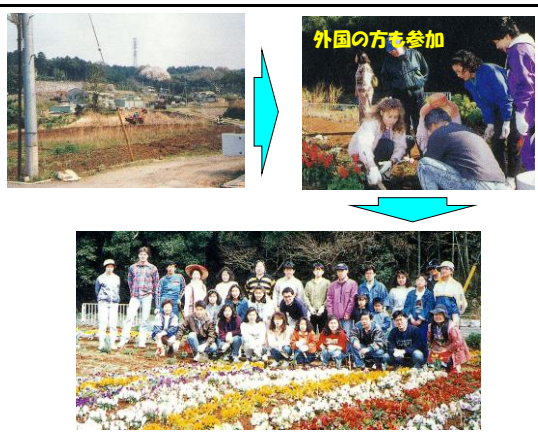
④地域総参加で公園づくり

（みどり野ふれあいの園
整備プロジェクト）



⑤耕作放棄地を国際交流の場に

（グローバルガーデンプロジェクト）

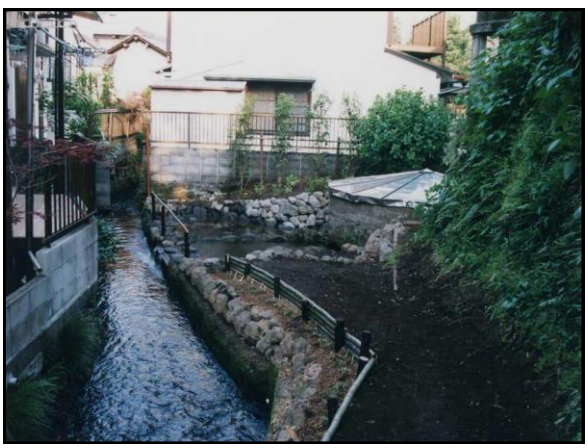


⑥歴史的な湧水池を再生

（鏡池お清め所再生プロジェクト）

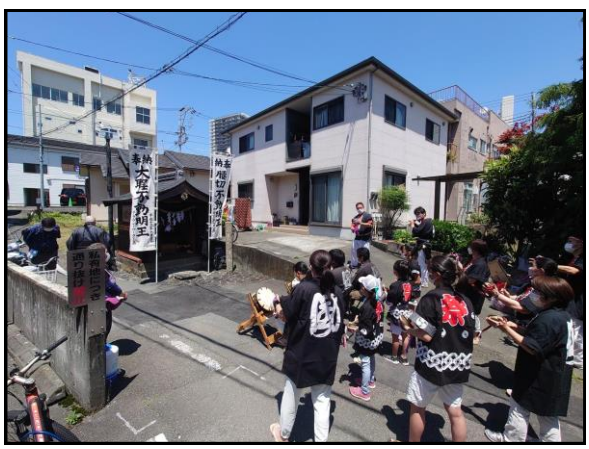
⑦泉トラスト運動で古井戸を復活

（雷井戸再生プロジェクト）



⑧忘れ去られた祭りの復活

（腰切不動尊・古井戸再生
プロジェクト）



⑨学校ビオトープによる生態系コリドーを新生

（市内21小・中学校に
学校ビオトープを整備）

⑩松毛川
「千年の森」づくり

（狩野川の原風景である
ふるさとの川と森の再生・保全）

地域住民との協働によるゴミ除去

松毛川（灰塚川）の環境劣化の進行

台風4号通過後のエノキの倒木
灰塚川左岸中流部・沼津市大平
（2012年）

エノキの倒木により崩壊した
自然堤防
（2012年）

市民によるホテイアオイの除去作業（2003年）

右岸・河畔林（荒廃した竹林） 2011年

右岸・河畔林再生（竹伐採）

最上流部・沼津市境（荒廃竹林） 2015年

最上流部・沼津市境（竹伐採・植樹後） 2016年

最上流部・沼津市境（成長した河畔林） 2020年

グラウンドワーク三島所有地・河畔林の確保

地元農家の私有地だった三島市側河畔林。
恒久的な管理を目指して、トラスト運動を実施。
2019年に23名の地権者より、土地3,098㎡を本会が買収。

2016年 松毛川河畔林再生活動

2021年11月 都留文科大学による竹林伐採体験

2022年3月 沼津市立大平中学校3年生による植林体験

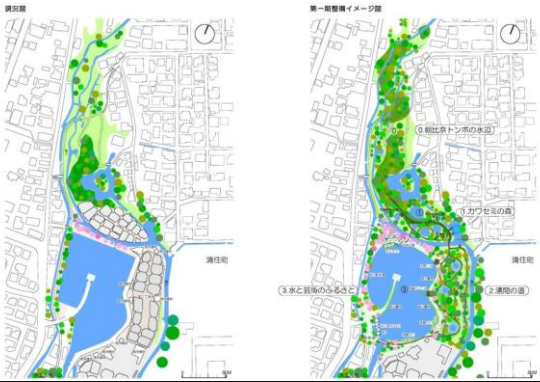
2022年3月 ゴムボートに乗って河畔林観察会

松毛川（灰塚川）整備構想図

⑪境川・清住緑地再生プロジェクト
水の郷湧水公園

境川清住緑地・水の郷大湧水公園　整備構想図

現況図　　第一期整備イメージ図



境川・清住緑地「水の郷・富士山大湧水公園」

大湧水池・三つ又

養魚場跡地

2020年3月1日
静岡新聞

整備、改修の「水の郷公園」沿い
境川の貴重植物 再移植
GW三島 工事の影響軽減へ

グラウンドワーク三島による被災地支援事業

①2011.3.11直後の壊滅的被害

②三島市より支援物資を届ける

③支援のための募金活動

④被災家族を伊豆の温泉で心のケア

震災支援活動【子供の自然体験・勉強・交流】

①東北の子供達と富士山チャレンジ

②大学生による学習支援活動

③三島市での環境学習支援活動

④東北と三島の子供たちでサッカー交流

震災支援活動【被災地の自然再生・起業支援】

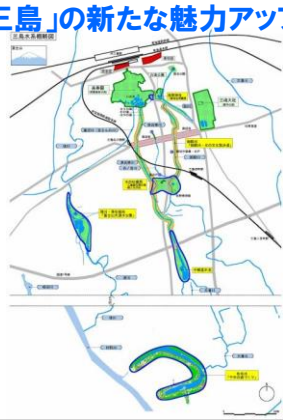
①宮城県で自然体験学校の整備を指導

②福島県の沿岸部農地を菜の花で彩る

③被災者の皆さまへ新たな起業支援研修

④被災地の地域資源を活かした起業支援

「水の都・三島」の新たな魅力アップ整備計画



今後のアプローチ
―回遊性ある湧水網都市づくり―

① 御殿川
「水の文化散歩道・水と緑のネットワーク」

② 中郷地区・大溝川
「梅名ロード」

③ 大場里山
「桜山再生プロジェクト」

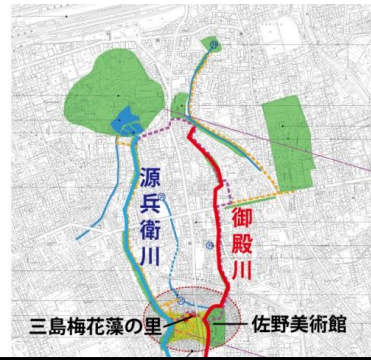
④ 市内空き家の改修活用事業

⑤ 中郷地区・大溝川
「梅名ロード」

今後のアプローチ
―回遊性ある湧水網都市づくり―

⑥ 大場里山
「桜山再生プロジェクト」
⑦ 市内空き家の改修活用事業
⑧ ふるさとの歴史古道・コウラブセ（甲羅伏）復元
⑨ 三島中央病院横
「水辺のレストラン」構想
⑩ 三島市本町
源兵衛川・水辺の憩公園構想

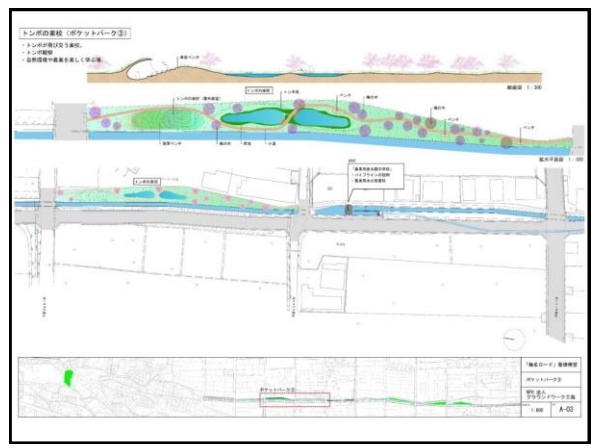
① 御殿川
「水の文化散歩道・水と緑のネットワーク」

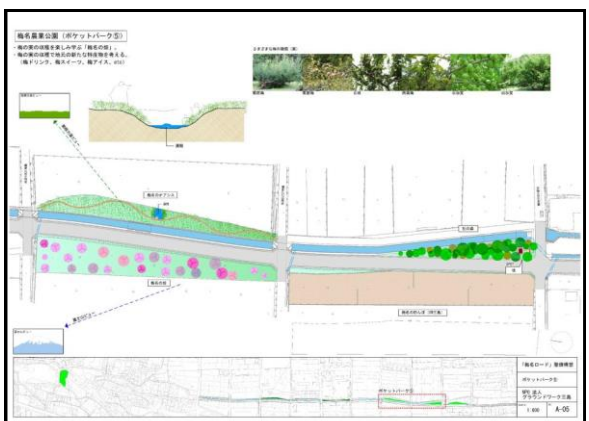


御殿川（通学橋の上流）

② 中郷地区・大溝川「梅名ロード」

「中郷温水池」修景整備構想





③大場里山「桜山再生プロジェクト」

「桜山」内の現況

大場里山土羽水路

「桜山」山頂部の石積みの祠

大場里山造成水路

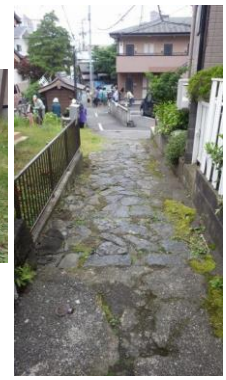
④市内空き家改修活用事業

三島街中カフェ1号店

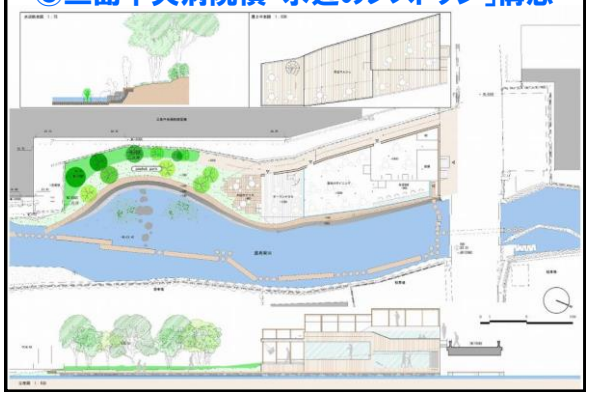
三島街中カフェ2号店

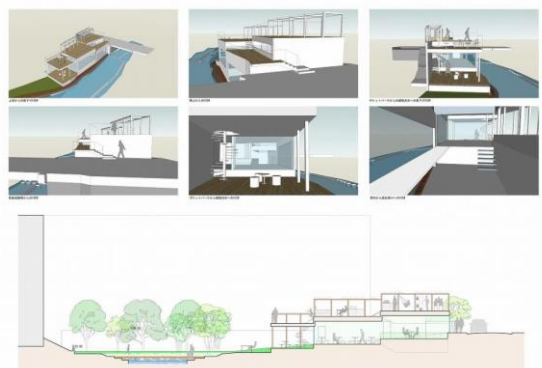
三島街中カフェ3号店

⑤ふるさとの歴史古道・コウラブセ（甲羅伏）復元

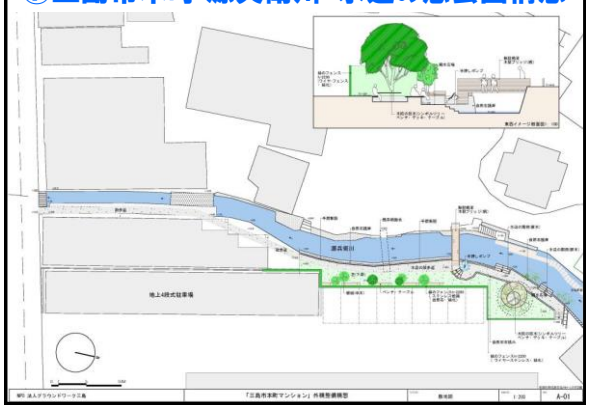


⑥三島中央病院横「水辺のレストラン」構想

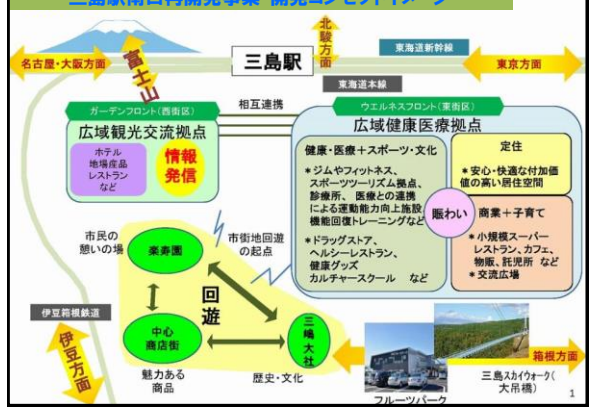




⑦三島市本町 源兵衛川・水辺の憩公園構想

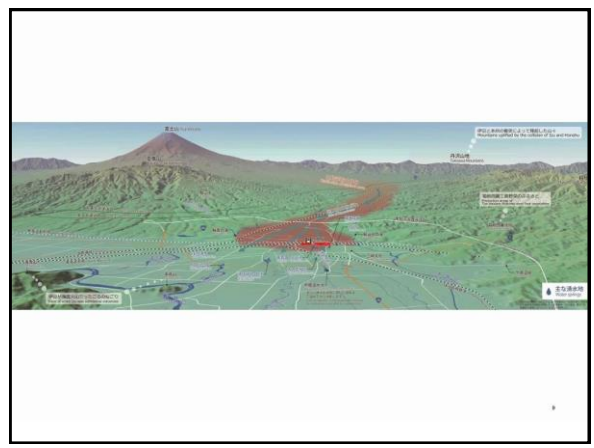


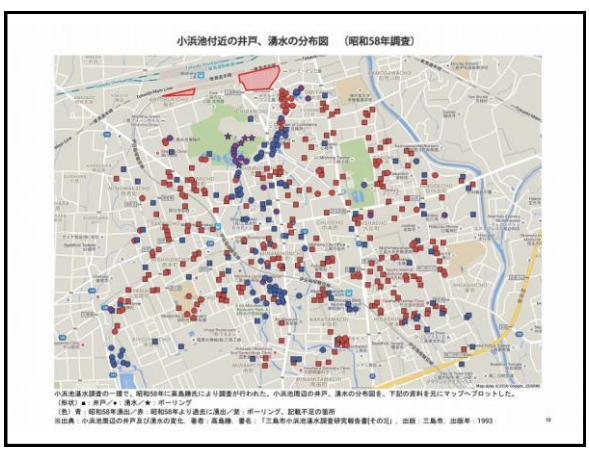
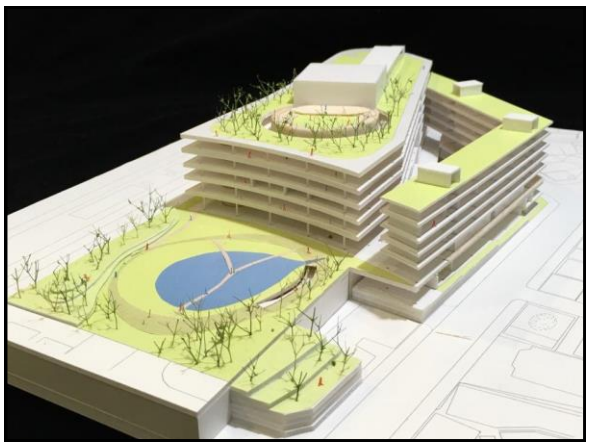
三島駅南口再開発事業・開発コンセプトイメージ



三島市立公園楽寿園正門前(上空):再開発後

三嶋大社(上空)




小浜池付近の井戸、湧水の分布図　(昭和58年調査)
小浜池湧水調査の一環で、昭和58年に高島勝氏により調査が行われた、小浜池周辺の井戸、湧水の分布図を、下記の資料を元にマップへプロットした。
(形状)■：井戸／●：湧水／★：ボーリング
(色)青：昭和58年湧出／赤：昭和58年より過去に湧出／黒：ボーリング、記載不足の箇所
※出典：小浜池周辺の井戸及び湧水の変化、著者：高島勝、書名：「三島市小浜池湧水調査研究報告書[その三]」、出版：三島市、出版年：1993

しずおか伊豆・文化の森セントラルパーク構想
伊豆の玄関口にふさわしい、市民に開かれた文化の森を創ります